

令和4年度行政事業レビューシート ( 文部科学省 )

<b>事業名</b>	日本・国際連合大学共同研究事業拠出金			<b>担当部局庁</b>	大臣官房国際課		<b>作成責任者</b>		
<b>事業開始年度</b>	平成4年度	<b>事業終了(予定)年度</b>	終了予定なし	<b>担当課室</b>	大臣官房国際課		国際協力企画室長 出口 夏子		
<b>会計区分</b>	一般会計								
<b>根拠法令</b> (具体的な条項も記載)	-			<b>関係する計画、通知等</b>	-				
<b>主要政策・施策</b>	-			<b>主要経費</b>	その他の事項経費				
<b>事業の目的</b> (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	国際連合のシンクタンクとして人類の存続・発展等に係る地球規模課題に取り組む国際連合大学について、我が国はその本部のホスト国として同大学との学術協力を推進することを通じ、世界的なアジェンダの解決に向けた貢献を示すことにより、我が国のプレゼンス向上を図る。								
<b>事業概要</b> (5行程度以内。別添可)	持続可能な開発目標(SDGs)達成に向け、国際連合大学サステナビリティ高等研究所が実施する大学院プログラムやSDG大学連携プラットフォーム(SDG-UP)などの人材育成等への支援を通じ、持続可能な社会の構築に貢献するため、国際連合大学へ拠出する。								
<b>実施方法</b>	その他								
<b>予算額・執行額</b> (単位:百万円)	<b>予算の状況</b>	当初予算	144	144	144	144	144	144	
		補正予算	-	-	-	-	-	-	
		前年度から繰越し	-	-	-	-	-	-	
		翌年度へ繰越し	-	-	-	-	-	-	
		予備費等	-	-	-	-	-	-	
		計	144	144	144	144	144	144	
	執行額	144	144	144	144	144	144		
	執行率(%)	100%	100%	100%	100%	100%	100%		
	当初予算+補正予算に対する執行額の割合(%)	100%	100%	100%	100%	100%	100%		
	<b>令和4・5年度予算内訳</b> (単位:百万円)	<b>歳出予算目</b>	<b>令和4年度当初予算</b>	<b>令和5年度要求</b>	<b>主な増減理由</b>				
政府開発援助ユネスコ事業等拠出金	144	144	※金額は単位未満四捨五入して記載していることから、合計が一致しない場合がある。						
計	144	144							
<b>活動内容</b> (アクティビティ)	サステナビリティに関する地球規模での取組を牽引する次世代の政策立案者や研究者を輩出するため、国際連合大学に拠出し、サステナビリティ学の大学院プログラムを支援する。								
<b>活動目標及び活動実績</b> (アウトプット)	<b>活動目標</b>	<b>活動指標</b>		<b>単位</b>	<b>令和元年度</b>	<b>令和2年度</b>	<b>令和3年度</b>	<b>4年度活動見込</b>	<b>5年度活動見込</b>
	国際社会での活躍が期待されるサステナビリティ分野の人材の養成	大学院プログラムの実施数	活動実績	プログラム	1	1	1	-	-
			当初見込み	プログラム	1	1	1	1	1
<b>単位当たりコスト</b>	算出根拠			<b>単位</b>	<b>令和元年度</b>	<b>令和2年度</b>	<b>令和3年度</b>	<b>4年度活動見込</b>	
	大学院プログラム経費の執行額/各年度の大学院プログラムの実施数			単位当たりコスト	千円	33,200	45,660	45,660	45,673
				計算式	千円/件数	33,200/1	45,660/1	45,660/1	45,673/1
<b>成果目標及び成果実績</b> (アウトカム)	<b>定量的な成果目標</b>	<b>成果指標</b>		<b>単位</b>	<b>令和元年度</b>	<b>令和2年度</b>	<b>令和3年度</b>	<b>中間目標</b>	<b>目標最終年度</b>
	本事業における大学院プログラムでの修了学生数を10名/年以上とすること。	本大学院プログラムを修了した学生数	成果実績	人	12	13	13	-	-
			目標値	人	10	10	10	10	10
			達成度	%	120	130	130	-	-
<b>根拠として用いた統計・データ名</b> (出典)	国際連合大学によるデータ提供								

<b>活動内容 (アクティビティ)</b>	国際連合大学がハブとなり、日本国内の大学がSDGsの取組を強化するとともに国内外に発信するために連携する場を提供できるよう、国際連合大学に拠出し、SDG大学連携(SDG-UP)の開催・運営を支援する。								
<b>活動目標及び 活動実績 (アウトプット)</b>	活動目標	活動指標		単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	4年度 活動見込	5年度 活動見込
	SDG-UPによる大学間連携の取組を促進する。	SDG-UPのワークショップ、シンポジウム開催回数	活動実績	回	-	6	9	-	-
			当初見込み	回	-	6	9	8	-
<b>単位当たり コスト</b>	算出根拠			単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	4年度活動見込	
	SDG-UPの開催・運営経費の拠出額/SDG-UPのワークショップ、シンポジウム開催回数	単位当たりコスト	千円	-	3,434	2,289	2,552		
		計算式	千円/回	-	20,601/6	20,601/9	20,416/8		
<b>成果目標及び 成果実績 (アウトカム)</b>	定量的な成果目標	成果指標		単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	中間目標 4年度	目標最終年度 -年度
	国内の大学にSDG-UPの活動が広がり、SDGs達成に向けた大学間連携が拡大すること。	SDG-UPへの参加大学数	成果実績	大学	-	28	31	-	-
			目標値	大学	-	25	28	31	-
			達成度	%	-	112	111	-	-
<b>根拠として用いた 統計・データ名 (出典)</b>	国際連合大学によるデータ提供								
<b>活動内容 (アクティビティ)</b>	日本の大学院生を対象に、地球規模課題の意識を高めることを目的に、国内外の著名な専門家の講演やグループ討論を通して交流するグローバルセミナーを国際連合大学に拠出して支援する。								
<b>活動目標及び 活動実績 (アウトプット)</b>	活動目標	活動指標		単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	4年度 活動見込	5年度 活動見込
	日本の大学院生等の地球規模課題についての知見を深めること。	地球規模課題についての知見を深めるグローバルセミナーの開催数	活動実績	回	1	1	1	-	-
			当初見込み	回	1	1	1	1	1
<b>単位当たり コスト</b>	算出根拠			単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	4年度活動見込	
	各年度のセミナー開催経費/各年度のセミナー開催数 ※本事業による拠出金は本セミナーの開催経費の一部に当てられている。	単位当たりコスト	千円	9,730	3,864	3,770	3,530		
		計算式	千円/件数	9,730/1	3,864/1	3,770/1	3,530/1		
<b>成果目標及び 成果実績 (アウトカム)</b>	定量的な成果目標	成果指標		単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	中間目標 4年度	目標最終年度 -年度
	グローバル・セミナーにおいて、より多くの参加者が満足感を得ること。	セミナー参加者のうち、満足度が高かった参加者の割合	成果実績	%	98	89	98	-	-
			目標値	%	90	90	90	-	-
			達成度	%	109	99	109	-	-
<b>根拠として用いた 統計・データ名 (出典)</b>	国際連合大学によるデータ提供								

政策評価、新経済・財政再生計画との関係	政策評価	政策	13 豊かな国際社会の構築に資する国際交流・協力の推進	
	政策評価	施策	13-2 国際協力の推進	政策評価書 URL https://www.mext.go.jp/content/20211224-mxt_kanseisk02-000019646_13-2.pdf
				該当箇所 施策目標13 -2-3
	新経済・財政再生計画改革工程表 2021	取組事項	分野:	-
(新経済・財政再生計画改革工程表 2021) URL:			-	-
該当箇所			-	-

事業所管部局による点検・改善

	項目	評価	評価に関する説明
国費投入の必要性	事業の目的は国民や社会のニーズを的確に反映しているか。	○	国際連合大学はサステナビリティ、国際協力、平和、持続可能な開発目標(SDGs)の達成などの世界的な問題に関する研究、教育を行っており、グローバル化した現代社会において、このような研究・人材育成事業、知識普及事業を行うことは我が国国民にとっても重要である。
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。	○	国連機関に対しては、カウンターパートである国が事業を精査し、推進していくことが重要である。
	政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。政策体系の中で優先度の高い事業か。	○	国連機関である国際連合大学本部のホスト国として事業活動に必要な拠出を行うことは必要である。また、本事業は、国際連合大学に拠出を行い、教育、研究及び知識の普及を行うものであり、「国際機関が実施する事業に拠出する等、国内外における活動を通じて国際的な取組に日本が貢献する」という施策(13-2 国際協力の推進)においても直接的な達成手段の一つであり、優先度の高い事業である。
事業の効率性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。	-	
	一般競争契約、指名競争契約又は随意契約(企画競争)による支出のうち、一者応札又は一者応募となったものはないか。	無	国際機関である国際連合大学本部のホスト国として拠出金を拠出するものであり、支出先は限定されている。
	競争性のない随意契約となったものはないか。	無	
	受益者との負担関係は妥当であるか。	○	国連機関と国との関係において、国際連合大学の事業費の一部を負担するものであり、妥当である。
	単位当たりコスト等の水準は妥当か。	-	-
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	-	-
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○	拠出金の支出額及び使途については、国際連合大学から提出される事業計画書及び報告書において精査しており、適切なものとなっている。
	不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	-	-
繰越額が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	-	-	
その他コスト削減や効率化に向けた工夫は行われているか。	-	-	
事業の有効性	成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか。	○	本事業によって、毎年度着実に、国際社会での活躍が期待されるサステナビリティ分野の人材の養成が進められ、成果実績は成果目標に概ね見合ったものとなっている。
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。	○	国連機関である国際連合大学が行うことにより、国際的ネットワークや蓄積された知見に基づく研究・人材育成事業が可能となり、実効性が高い。
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	○	世界的課題の解決のためのシンクタンクとして、教育、研究・学術活動、知識の共有と移転に関する活動が活動見込みに見合った形で着実に行われている。
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	○	HPの活用、セミナーやシンポジウムの開催等の情報発信を通じ、国内外の研究者・学生を含めた広く一般にも研究成果の活用を図っている。

関連事業	関連する事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)					-
	事業番号			事業名		-

点検・改善結果	点検結果	国際連合大学への拠出金については、毎年、国際連合大学から提出される事業計画書及び報告書において用途を把握し、拠出金の執行状況や事業目的の達成状況にどう関連しているかについて、適宜協議・確認を行っており、概ね目標は達成されている。
	改善の方向性	国際連合大学に対し、引き続き効率的・効果的な執行を要請するとともに、現状の課題分析を踏まえた事業の展開など改善に向けた取組を促す。

**外部有識者の所見**

現在のアウトカムは、SDGIに貢献出来る人材の誕生を期待できる状況を示すものにどまっているように思われるか、本事業を通じ、実際にSDGIに貢献している人材の数を目標値として設定できないものか。

**行政事業レビュー推進チームの所見**

部容事 改の業 善一内	この事業は、外部有識者からの指摘を踏まえ、成果目標についてSDGsに貢献している人材の数を目標値として設定することを検討するべきである。
-------------------	--

**所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況**

改年 善度 を内 検に	本事業では、SDGsに貢献することが見込まれる人材として、国連大学大学院プログラムを修了した人数を成果目標としている。外部有識者の御指摘を踏まえ、更に適切な指標がないか検討することとした。
----------------------	--

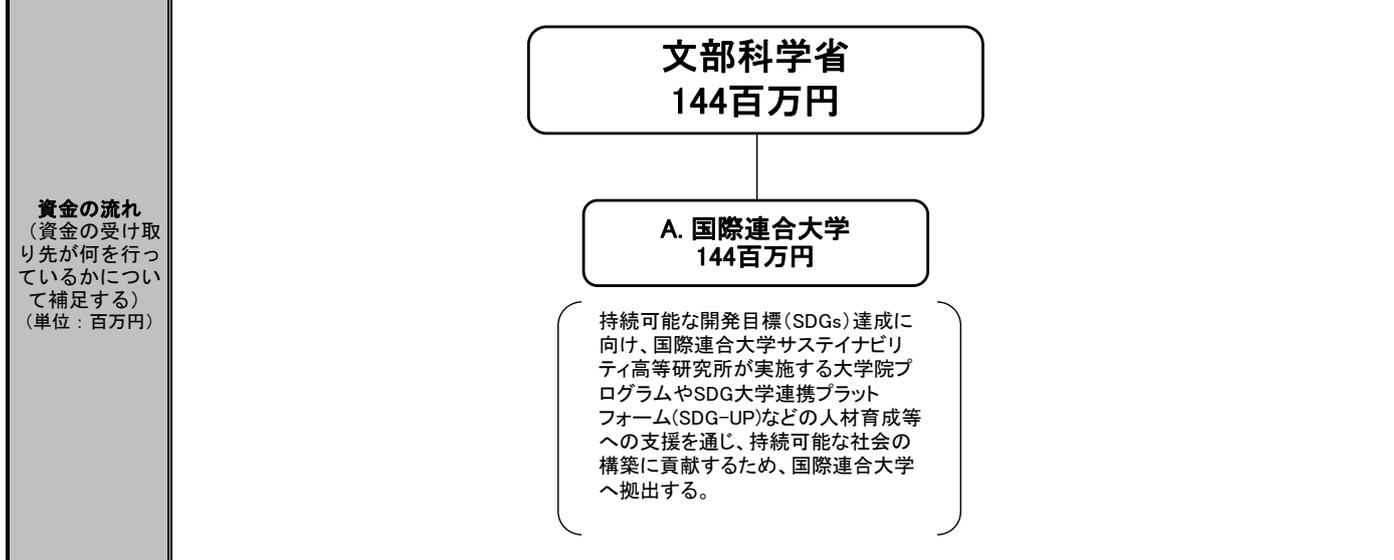
**備考**

【国連大学サステナビリティ高等研究所年次報告書】  
[https://i.unu.edu/media/ias.unu.edu-jp/attachment/19664/UNU-IAS\\_AR2019\\_JP\\_PDF\\_210402.pdf](https://i.unu.edu/media/ias.unu.edu-jp/attachment/19664/UNU-IAS_AR2019_JP_PDF_210402.pdf)  
 【地球規模課題解決に資する国際協カプログラム(国連大学ホームページ)】  
<https://ias.unu.edu/jp/research/grant-for-global-sustainability-ggs.html#outline>

**関連する過去のレビューシートの事業番号**

平成23年度	17			
平成24年度	12			
平成25年度	435			
平成26年度	431			
平成27年度	426			
平成28年度	409			
平成29年度	417			
平成30年度	420			
令和元年度	文部科学省 - 0413			
令和2年度	文部科学省 0414			
令和3年度	0439			

※令和3年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。



費目・用途 (「資金の流れ」においてブロックごとに最大の金額が支出されている者について記載する。費目と用途の双方で実情が分かるように記載)	A.国連大学			B.		
	費目	用途	金額 (百万円)	費目	用途	金額 (百万円)
	拠出金	国際連合大学への拠出金	144			
	計		144	計		0

支出先上位10者リスト

A.

	支出先	法人番号	業務概要	支出額 (百万円)	契約方式等	入札者数 (応募者数)	落札率	一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上)
1	国際連合大学	-	国際連合大学への拠出金	144	その他	-	-	

国庫債務負担行為等による契約先上位10者リスト

	ブロック名	契約先	法人番号	業務概要	契約額 (百万円)	契約方式	入札者数 (応募者数)	落札率	一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (契約額10億円以上)
1		-	-				-	-	